

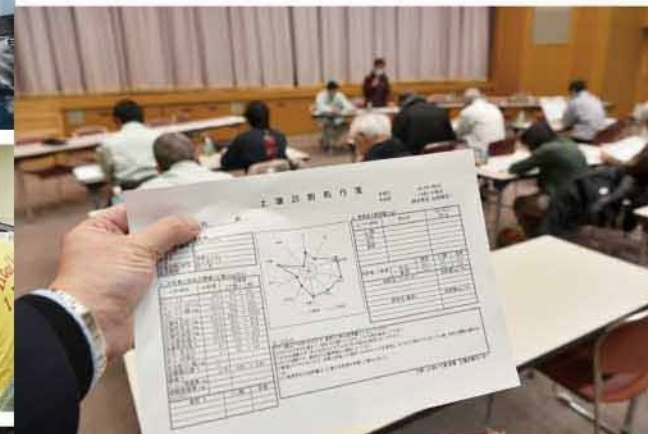
農協だから できる事がある！



JAあいち豊田は、地域に根ざした農業協同組合として、地域の「農」と「食」を守り、組合員の「くらし」を豊かにするため、組合員の皆さまの「声」に耳を傾け、組合員の営農支援や地域の活性化に向けて役職員一丸となって取り組んでまいります。

✿ JAあいち豊田が今年度に行う 営農支援への取組みの一部を紹介します。

土づくりのサポートや水稻の品質向上へ



土づくりの講習会を開催

JAは米の土壌診断費用を全額助成しています。診断結果を詳しく説明する講習会の開催や無駄なく適切な施肥を提案し、コスト削減と品質向上の両立を目指します。

また、近年の温暖化で課題となっている高温障害対策として新品種の試験栽培やミネアサヒの遅植え試験を実施し検証していきます。

JAは、収穫量増加と品質向上のため、組合員の土づくりをサポートします。また、新しい栽培技術や新品種の導入にも取り組んでいきます。

農業機械のセルフメンテナンスでコスト削減

JAは「農業機械セルフメンテナンス講習会」を農機展示会に合わせて各地域で開催します。講習会は、自分で行えるメンテナンスを中心にを行います。使用後のチェック箇所、消耗品の取替時期目安などを説明します。自分で点検・整備することで大きな故障を未然に防ぎ、長期的な安全作業が可能となりコスト削減にもつながります。

JAは講習会等を通じてセルフメンテナンスを提案していきます。



トラクターのメンテナンスを学ぶJA 青年部次代の会会員

JAあいち豊田は
これからも組合員の営農を応援していきます。

楽しかった軽トラ市

旭地域 原田 紘八朗さん・アサ子さん

J Aの職員に声をかけてもらい、今年度初めて軽トラ市に出店しました。山間農業をしているので、目の前で自分が作ったお米や野菜が売れていくのはとても楽しかったです。

お客さんはどんなものが欲しくて、ほかの農家の方々が何を売っているのかも興味がありました。お客さんに私たちの顔を見てもらい、直接会話し、安心して買ってもらえたと思います。



JA 甘長ピーマン部会の原田アサ子さんと紘八朗さん

グリーンボイス2019年3月号より

組合員のみなさんに聞きました
実感してますか
私たちの

自己改革

J Aがより組合員の農と暮らしに寄りそおうと4年前から始めた自己改革。その取り組みの感想を組合員のみなさんに聞きました。J Aは考え、行動し、見直すことでこれからも皆さんに欠かせない存在を目指します。



地域農業発信イベント
軽トラ市（藤岡交流館）



商品価値を高めるPR
量販店での販売促進



赤とんぼ米のブランド化



地域農業発信イベント
軽トラ市（豊田厚生病院）



土壌診断の助成



商品価値を高めるPR
ジャンボ梨コンテスト

土壌診断で出荷こぎつけ

猿投地域 加藤 靖信さん

J Aの土壌診断で畑の養分バランスが偏っている状態だと分かり、診断結果から原因もつきとめることができました。猿投地域で夏はスイカ、冬はハクサイを栽培しています。スイカの場合、根から養分が吸えないことが想定されたので、肥料を葉面散布する対策で出荷までこぎつけました。

J Aの土壌診断の助成とアドバイスのおかげで、ほ場の状態も改善に向かっています。



JA 猿投西瓜部会・JA 猿投白菜部会の
加藤靖信さん

農薬価格が下がってうれしい

みよし地域 伊藤 利子さん

物価は上がっても、ブドウの値段は変わりません。J Aが農薬の価格を下げてくれたのはうれしい。

ブドウ作りで一番大切なのは、病気と虫を出さないこと。消毒は芽が出る前の2月に始まり、春以降は月に3回は散布します。J Aは職員が相談に乗ってくれるから、頼りになります。栽培暦の説明会には必ず参加して指導員が畑を巡回してくれるのも助かります。これからも、いつも頼れるJ Aでいてほしいです。



ブドウを栽培する伊藤利子さん

ありがたい黒マルチ据え置き

下山地域 梶 孝光さん・明美さん

菊作りに欠かせない黒マルチの資材価格が上がると大変です。JAが資材を一括購入して、価格を据え置いてくれたのはありがたかった。2.5畝で栽培しているので経費が多い分、コストが大幅に減って助かります。

経費を抑えるほか、売り先を考えて単価を上げたり、販売にも力をより入れてもらったりと、JAに頼ることはたくさんあります。



下山高原生花生産組合の梶孝光組合長と明美さん

一番に手を挙げた意見交換会

猿投地域 大澤 真澄さん

青年部の仲間とJA役員との意見交換会では一番に手を挙げました。若い農家と青年部の今後の展望について意見を交わしました。日ごろ出荷する選果場では担当の職員にダイレクトに意見できますが役員に対しJA事業全体に関わる話が出来たのは貴重でした。JA青年部活動は、作る農産物は違って組織でつながることで視野が広がり、ネットワークを築いていける可能性が実感できました。



JA 青年部次代の会の大澤真澄さん



農業体験による理解促進
ジャガイモの収穫



一括購入による
黒マルチの価格の据え置き



農業体験による理解促進
市場見学



リースハウスの助成



資産継承のセミナー



農業体験による理解促進
キュウリの収穫



青年部との意見交換



新型囲い罫の導入



水稻・野菜肥料の価格低減



新型囲い罫の導入

リースハウスで夢が広がる

高岡地域 白井 久子さん

グリーンセンターでリースハウスの募集が目に入り飛びつきました。親から受け継いだ高岡地域の畑で果樹栽培をしながら、ハウスを利用した野菜作りに挑戦してみたいとずっと思っていました。

年間の支払いが数万円でハウスを建てられることは、取り組みやすい上に、7年したら無償で払い下げられるのも魅力です。今はチンゲンサイを栽培しています。自己流の栽培しか知らず不安でしたが、JAの指導員が丁寧に教えてくれます。ゆくゆくはトマトに挑戦したいです。



JA 産直部会の白井久子さん

元肥安く助かる

上郷地域 古澤 清さん

現在、3畝の田んぼで耕作をしています。地域の年から農地を預かる農家として、元肥をJAが安く提供してくれるのはとても助かります。

JAが作ってくれる暦に沿って栽培をし、必要な資材を購入しています。JAの購買店舗は、肥料や農薬のことなど、栽培について職員が相談に乗ってくれアドバイスをくれます。他にはない安心感がありますよ。

これからも肥料などの生産コストを下げる取り組みは続けてほしいです。



米を栽培する古澤清さん

仲間増やしたい「赤とんぼ米」

藤岡地域 濱田 夕起子さん 小松 誠一さん

山に囲まれた田んぼでできた地元のお米はおいしい。その魅力を多くの消費者に伝えたいと考えていたところ「赤とんぼ米」の取り組みを耳にし、JAに相談しました。

環境に優しい農薬を使い、生き物の生態に配慮して栽培された特別栽培米「赤とんぼ米」が地域ブランドの1つとして少しずつ浸透してきたことはとてもうれしい。15㌦から始めたほ場も、今は51㌦まで広がっています。JAと一緒にまだまだ栽培する仲間を増やしていきたいです。



赤とんぼ米を栽培する
濱田夕起子さんと小松誠一さん

家内も大喜び「農業応援チケット」

豊田地域 三宅 成豪さん

貯金をして野菜がもらえるこの企画はとてもいいアイデアで他の金融機関にはないJAらしい取り組みだと思います。特に家内は大喜びです。産直プラザをよく利用していて、チケットで米と野菜、果物、花を買いました。農家の人が採れたての野菜を直接並べてくれるので、新鮮な農産物が手に入るし、直接食べ方や選び方も聞くことができます。貯金をして農業応援になればみんながうれしいですね。



JA 事業を利用する准組合員の三宅成豪さん



除草剤の価格低減



防草シートの助成



定期貯金に「農業応援チケット」



定期貯金に「農業応援チケット」



栽培指導や講習会
小原地区での水稻青空教室



赤とんぼ米のブランド化
生き物観察会



地産地消・食育食農活動
助け合いの会の訪問ボランティア



地産地消・食育食農活動
JA フェスタ



地産地消・食育食農活動
オリジナルドレッシングの試食販売



栽培指導や講習会
ヤマゴボウのほ場巡回

防草シート結果が楽しみ

松平地域 杉本 英雄さん

田んぼのあぜの草刈りは重労働、シーズン中は年6回ほど行わなければいけません。山に囲まれた地域でのり面が多く、耕作する面積より草刈りする面積が多いほど。急な勾配もあり危険です。

青空教室で防草シートがあることを職員が教えてくれました。JAの助成金があり取り組みやすいと感じ購入しました。昨年10月の稲刈り後に張ったので、来年の結果が楽しみです。



米を栽培する杉本英雄さん

チケット 仲間の話題に

猿投地域 梅村 博司さん

多くの消費者に私たちの野菜が買ってもらえる機会が増え、農業応援チケットの取り組みに喜んでいきます。産直会員の間でも話題になりました。

現在、3㌦の畑で大根やヤマゴボウなどの野菜を1年通して栽培し、出荷。安全安心な野菜づくりを心がけています。スーパーなど農産物を購入できる店は多くありますが、JAの産直施設だからこそできる工夫で、他店との差を生み出してほしいです。



JA 産直部会の梅村博司さん